

混迷する次期法王の選出

法王フランチェスコは、5月29日、新しい枢機卿を21名任命した。法王在任中に8度目の新枢機卿任命、またその人数も21名の多きに上り、人々は目を見張った。選ばれた枢機卿の中には、かなり名を知られた人物もいるが、そうでない人物もいる。その内訳を紹介しよう。

イタリア人は5名。しかし、そのうち法王を選ぶコンクラーベに参加できるのは、たった2名だけである。まず、モンゴルに伝道師として赴任しているジョルジョ・マレンゴ神父。モンゴルに関係する初めての枢機卿だ。そして、イタリア北の都市コモのオスカル・カントーニ神父である。コモから枢機卿が輩出されたのは歴史上初めてのことであった。イタリアでよく知られた重要都市トリノ、ミラノ、ジェノヴァ、パレルモには、枢機卿は現在誰もいない。

モンゴルに関係するマレンゴ神父は48歳。任命された21名の中で一番若い人だ。ローマ評議会からの任命は3名である。イギリス人のアーサー・ローシュ、韓国人コー・ヒューリング・シクとスペイン人のフェルナンド・ヴェルゲス・アルツァガである。

この新枢機卿の任命で、法王選出のためのコンクラーベに出席できるのは132名となった。法王パオロ6世の時に、コンクラーベに出席できるのは最大120名と規定されたが、これはすぐに有名無実となってしまった。

今回の任命を受けて、コンクラーベに出席できる枢機卿は、ヨーロッパ人54名、南北アメリカ人38名、アジア人20名、アフリカ人17名、オセアニア人3名である。法王フランチェスコの下、枢機卿の世界分布はさらに一段と広がった。その分、逆にイタリア人を中心とするヨーロッパ人の数はさらに減少している。例えば、現法王フランチェスコを選出した時には、イタリア人の枢機卿の数は115名中28名だった。今回の新しい枢機卿の任命の後、イタリア人の枢機卿の数は132名中わずか21名となってしまった。前回、イタリア人を除くヨーロッパの枢機卿は、100名中52名だったが、現在では100名中41名となっているのだ。

純潔について

純潔、とりわけ結婚前の純潔に対するヴァチカンの見方は、愛における真の交わりとして扱うべきだという考え方である。結婚についての法王の声明が、「結婚生活のためのカソリックの教理習得の道なり」と題して、ヴァチカンの「信徒・家庭・いのち」の部署から発行された。この文書には、結婚を前にした準備期間や間近に結婚を控えた時期をどう過ごすかについて、信徒の指針が記されている。まずは教会で司祭の教えをよく聞き、婚約期間中に夫婦の役割を十分理解することが大切だとされる。また、結婚して最初のうちは相互の理解を促進すべきことが説かれている。

結婚生活の中であって、「神から遠ざかる」という罪に陥らないよう、たえず気を付けなくてはならない。夫婦2人の結びつきの神秘性について深く考え、財産のこと、まして離婚した後自分の取り分について思い巡らすべきではない。夫婦が相互理解の愛に基づいて、家族への愛と勇気を示すことが大切であるとも述べられる。その一方で、別れることが避けられない場合があり、そうすることが推奨されるべきこともある

とも、この文書では認めている。

法王のロシア訪問は

本誌2022年4月号で、ローマ法王はすぐにでもロシアを訪問することに言及した。しかし、法王の体調（膝の痛み）や、ロシアの現状を鑑みて、時期が熟しておらず、訪問はいまだに実現していない。法王は5月3日に膝の手術を受けると予告していたが、本稿執筆の7月3日現在に至るまで、手術は行われていない。法王は移動の際、パパモービレ（車）に乗ったり、手押し車を用いている。

ここでは、法王のロシア訪問やプーチン大統領との面会の可能性について、メディアが取り上げた重要な人物の発言を紹介したい。

ヴァチカンのロシア大使館アレクサンダー・アグデーブ大使は、ロシア人記者セルジェイ・スタンドセフに対して、「どんな国際情勢であろうとも、ローマ法王との対話は、モスクワにとっても大変重要だ。法王は常に受け入れられ、市民もそれを望み、対話を望んでいる」と述べている。

しかし、ヴァチカンのウクライナ大使館アンドリル・コラシユ大使は、「法王のメッセージは意義がある。しかし、人の話を聞かず、忠告を受け入れないプーチンにとっては、法王の願いは聞き入れがたいものだろう」とも語っているのだ。

イタリア民主党党首のエンリコ・レッタは、「法王の提案は立派なものである。彼は平和に向け、歩みを進めており、戦争開始当事者を説得するのが自分の役目と考えている、成功を祈るのみだ」と述べている。

一方、右翼のレーガ党のマッテオ・サルヴィーニ党首は、「法王の発言について驚いている。宗教の代表者としての霊的な呼びかけではなく、まるで一国の代表として、つまり、ヴァチカン市国の長として、平和に貢献するというのだ」と語っている。

法王がロシアを訪問したいというニュースは、ウクライナのカソリック教会内部に大きな衝撃を与えた。エザルカ神父は、「イタリアにいるウクライナ人のカソリック信者に大きな動揺を与えた。法王が、ロシアのウクライナ侵攻の理論の正当性を認めたら、我々にとっては大変なことになる」と驚きを隠せない様子だ。

その一方で、ヴァチカンの外交官であり、ルムサ大学の学長でもあるフランチェスコ・ボニーニは、「法王のモスクワでのプーチンとの邂逅は、決して空振りには終わらないだろう。むしろ逆に、平和への歩みが開かれるだろう」と述べている。

ロシア大司教兼ロシア連邦カソリック司教団長パオロ・ベッツィは、「ローマ法王のロシア訪問の発表はプーチンの行為を肯定的に捉えているからだと思う」と語る。しかし、クレムリンに近い理論学者のアレクサンドル・ドーギンは、「そんなことはない。法王は一体何を言うかって？ 『すべてを停止させなさい』と命じるだろう。そんなことは、プーチンは百も承知なのだ」と反論している。

社会の調和と平等を目指す運動の創始者でもあるイタリア人のアレックス・ザノテッリ神父は、「法王は戦争を止めさせるために、すべてのカードを使うだろう。今、戦争を止めさせられるのは法王だけだろう」と主張する。このザノテッリ神父の言葉ほど、カソリックの期待を端的に表明しているものはないだろう。